

土屋文明年譜（明治期・大正期）

- 【凡例】
- ・『土屋文明全歌集』小市巳世司編「年譜」（平成5年 石川書房）を定本とし、以下の年譜及び資料を参考にしました。
 - ・情報源により、あいまいなものや、地名、歌会等の表記に統一を欠く場合があります。
 - ・脚注の番号は年毎に付けました。
- （吉田年譜）・・・『土屋文明論考』吉田漱編「土屋文明年譜」（昭和52年 短歌新聞社）
 （吉村年譜）・・・『アララギ』土屋文明追悼号 吉村睦人編「土屋文明年譜」（平成3年 アララギ発行所）
 （伊藤年譜）・・・『群馬文学全集』第2巻 伊藤安治編「年譜」（平成11年 群馬県立土屋文明記念文学館）
 （系譜）・・・『土屋文明私稿』橋本徳寿著「土屋家系譜」（昭和50年 古川書房）
 （書簡）・・・『土屋文明書簡集』（平成13年 石川書房）
 （ア）・・・『アララギ』（アララギ発行所）
 （『群馬』）・・・群馬県立高崎中学校校友会誌（旧制高崎中学校。高崎高校同窓会ホームページで閲覧可能）
 （茂吉年譜）・・・『斎藤茂吉全集』56巻（昭和32年 岩波書店）
 （翠微）・・・村上成之歌集『翠微』（大正14年 古今書院）
 （つゆじも）・・・斎藤茂吉歌集『つゆじも』（昭和21年 岩波書店）
 （芥川年譜）・・・『芥川龍之介全集』24巻（平成10年 岩波書店）
 （歌人）・・・『歌人土屋文明』（平成20年 塙書房）

西暦	和暦	齢	できごと
1890	明治23		6月28日 長兄臨記夭折。（系譜）
1890	明治23	0	9月18日 群馬県西群馬郡上郊村大字保渡田（現高崎市保渡田町）に生まれる。戸籍上の誕生日は翌24年1月21日。兄臨記がいたが文明出生前に三歳で夭折したため、父保太郎、母ヒデの長男として入籍。 ※1
1893	明治26	2	3月20日 弟則一郎誕生。この頃から上郊村大字井出（現高崎市井出町）の伯父福島周次郎、伯母ノブ（父の姉）夫妻のもとで養育される。
1897	明治30	6	1月23日 弟筆司誕生。（系譜）
1897	明治30	6	4月7日 上郊尋常小学校井出分教場（本校・善龍寺本堂）に入学。分教場主任塚越通三郎。担任大熊新作。伯父周次郎の家から通う。（福島家の西半分は塚越通三郎が下宿） ※1
1899	明治32	9	10月25日 弟弥市誕生。（系譜）
1899	明治32	9	この年、塚越テル子が尋常小学校を卒業後、上京。ミッションスクールの女子学院に入学し10年間の寮生活を始める。 ※1
1900	明治33	10	10、11歳の時、伯父から俳句短歌を教えられる。伯父所有の国語読本の和歌をまねする。 ※1
1900	明治33	10	伊藤左千夫、正岡子規に入門。
1901	明治34	10	2月 本校新校舎落成、分校が廃止される。 ※1
1901	明治34	10	3月14日 尋常科を卒業。 ※2
1901	明治34	10	4月22日 新設の高等科に進学。中沢愛之祐が唱歌の専科担任となる。 ※3
1902	明治35	11	4月 高等科二年に進級、中沢愛之祐が担任となる。 ※1
1902	明治35	11	8月22日 弟望運誕生。（系譜）
1902	明治35	12	9月19日 正岡子規死去。
1903	明治36	12	1月 島木赤彦ら『氷むろ』（後に『比牟呂』）創刊。
1903	明治36	12	3月 中沢愛之祐が桐生へ転任。
1903	明治36	12	4月 高等科三年に進級、関根甚七が担任となる。
1903	明治36	12	4月1日 塚越エツ（小学校高等科の同級生。後に文明の妻となったテル子の妹）病気のため退学。 ※1
1903	明治36	13	この頃、「小琴をば風のまにまにかなづるは神にやあらむ松の秀枝に」を作る。 ※2
1904	明治37	13	2月 日露戦争開戦。
1904	明治37	13	3月24日 上郊尋常高等小学校高等科卒業。 ※1
1904	明治37	13	4月15日 高崎中学校（現群馬県立高崎高等学校）入学式、91名入学。（『群馬』4号） 中学二三年頃まで井出の家から下小島経由約7キロの道を徒歩で通学。 ※2
1904	明治37	13	7月23日 第一学期終業式。（『群馬』4号）
1904	明治37	13	9月12日 第二学期始業式。（『群馬』4号）
1904	明治37	14	10月7日、8日 妙義地方に一泊の遠足。（『群馬』4号）
1904	明治37	14	12月23日 第二学期終業式。（『群馬』5号）
1905	明治38	14	1月1日 夏目漱石、『ホトトギス』8巻4号に「吾輩は猫である」を発表。

土屋文明年譜（明治期・大正期）

西暦	和暦	齢	できごと
1905	明治38	14	1月1日 新年拝賀式。（『群馬』5号）
1905	明治38	14	1月9日 第三学期始業式。（『群馬』5号）
1905	明治38	14	1月10日 旅順陥落祝捷空砲発火演習。（『群馬』5号）
1905	明治38	14	2月11日 紀元節拝賀式。（『群馬』5号）
1905	明治38	14	4月5日 第一学期始業式（『群馬』6号）、第二学年に進級、二年一組分け。（『群馬』7号）
1905	明治38	14	4月10日 高崎中学に岩澤正作（教育者・考古学者、1876-1944）就任。（『群馬』6号）
1905	明治38	14	5月31日 日本海海戦大勝利祝捷会。（『群馬』6号）
1905	明治38	14	6月1日 塚越エツ病死。（墓碑）
1905	明治38	14	7月20日 第一学期終業式。（『群馬』6号）
1905	明治38	14	夏 旧担任の中沢愛之祐が講習で上京した先から雑誌『ホトトギス』を送ってくれる。 ※1
1905	明治38	14	9月6日 第二学期始業式。（『群馬』6号）
1905	明治38	15	10月12日～14日 江ノ島・鎌倉へ修学旅行。（『群馬』7号）
1905	明治38	15	10月14日 日露講和条約（ポーツマス条約）批准（終戦）
1905	明治38	15	11月24日 剣崎方面（現高崎市）で発火演習。（『群馬』7号）
1905	明治38	15	12月21日 第二学期終業式。（『群馬』7号）
1906	明治39	15	1月1日 伊藤左千夫が雑誌『ホトトギス』に「野菊の墓」発表。
1906	明治39	15	1月1日 年賀の式。（『群馬』7号）
1906	明治39	15	1月8日 第三学期始業式。（『群馬』7号）
1906	明治39	15	2月1日、2日、3日 第十五連隊凱旋兵歓迎のため高崎田町へ赴く。（『群馬』7号）
1906	明治39	15	2月11日 紀元節拝賀の式。午後第十五連隊兵営内の歓迎会及び吊魂祭に参列。（『群馬』7号）
1906	明治39	15	2月18日 用器画を書く。夜、毛筆画と日誌を書く。（『群馬』7号「日曜日記」）
1906	明治39	15	3月9日 日露戦役戦死者追弔祭参列のため第十五連隊兵営内へ行く。（『群馬』7号）
1906	明治39	15	3月27日 島崎藤村『破戒』刊行。
1906	明治39	15	3月28日 『群馬』7号に散文「日曜日記」「冬に貧家」が初掲載。
1906	明治39	15	4月9日 第一学期始業式（『群馬』8号）、第三学年に進級。
1906	明治39	15	4月30日 山名方面（現高崎市）へ遠足。（『群馬』8号）
1906	明治39	15	7月21日 第一学期終了。（『群馬』8号）
1906	明治39	15	夏頃か ガラメキ温泉（現榛東村）で自炊。（吉田年譜）
1906	明治39	15	9月6日 第二学期始業。（『群馬』8号）
1906	明治39	16	9月20日 箕輪方面（現高崎市）へ遠足。（『群馬』8号）
1906	明治39	16	10月14日 水戸方面へ修学旅行。（『群馬』8号）
1906	明治39	16	10月 『ホトトギス』を講読しはじめる。 ※1
1906	明治39	16	12月15日 第二学期試験開始。（『群馬』9号）
1906	明治39	16	12月20日 第二学期終業式。（『群馬』9号）
1907	明治40	16	1月1日 新年拝賀式。（『群馬』9号）
1907	明治40	16	1月8日 第三学期始業式。（『群馬』9号）
1907	明治40	16	2月11日 紀元節拝賀式。（『群馬』9号）
1907	明治40	16	2月14日 理学博士神保小虎の講話会。（『群馬』9号）
1907	明治40	16	3月10日 歩兵第十五連隊招魂祭参列。（『群馬』9号）
1907	明治40	16	3月27日 『群馬』9号に散文「友と写し、写真に題す（即題）」が掲載される。
1907	明治40	16	4月8日 第一学期始業式（『群馬』10号）、第四学年に進級。40年度校友会学芸部委員。
1907	明治40	16	5月21日 国語漢文教師の村上成之が成東中学校から転任（官宅は高崎市赤坂町146）。40年度校友会学芸部長に着任。授業で生徒に写生文を作らせる。 ※1
1907	明治40	16	7月16日 第一学期試験開始。（『群馬』10号）
1907	明治40	16	7月20日 第一学期終業式。（『群馬』10号）
1907	明治40	16	9月1日 田山花袋、『新小説』9月号に「蒲団」を発表。
1907	明治40	16	9月1日 榛名山へ遠足。（吉田年譜 但し疑問あり） ※2
1907	明治40	16	9月5日 妹八千代誕生。（系譜）
1907	明治40	16	9月6日 第二学期始業式。（『群馬』10号）
1907	明治40	17	10月1日 総社方面（現前橋市）へ遠足。（『群馬』10号）
1907	明治40	17	10月5日 四五学年、並榎方面（高崎市）へ生徒夜間演習。（『群馬』10号）

土屋文明年譜（明治期・大正期）

西暦	和暦	齢	できごと
1907	明治40	17	10月14日～16日 銚子方面へ修学旅行。（『群馬』10号）
1907	明治40	17	10月14日 修学旅行先から中川尋常高等小学校の中沢愛之祐に絵葉書（香取公園・鹿島艦、香取神宮参拝のスタンプ）を出す。（館蔵）
1907	明治40	17	11月3日 『群馬』10号に四年生土屋文明の「一町の間（写生文）」掲載。村上蟬室の筆名で村上成之の「旅片信」掲載。
1907	明治40	17	『俳諧大要』『獺祭書屋俳句帖抄』等を購読。 ※3
1908	明治41	17	2月6日 三井甲之『アカネ』創刊。『ホトトギス』の広告で『アカネ』の創刊を知り購読、蛇床子の筆名で短歌、詩、写生文等を投稿。『アカネ』1巻1号に靉魚郎の筆名で村上成之の短歌1首掲載。
1908	明治41	17	3月20日 『群馬』11号に「浅間山を望む（写生文）」俳句5句、雑報「天長節拝賀式」、雑報「冬季休業」、雑報「雪中遠足」が掲載される。同号には村上成之の名で和歌「健男詞」10首、村上蟬室の筆名で村上成之の句「春十題」も掲載。
1908	明治41	17	3月27日 第三学期終業式。（『群馬』12号（明治41年11月））
1908	明治41	17	4月1日 『アカネ』1巻3号に靉魚郎の筆名で村上成之の短歌5首が掲載（アンニヤモンニヤ3首、子規先生の書簡2首）される。
1908	明治41	17	4月8日 第一学期始業式（『群馬』12号）、第五学年に進級。引き続き村上成之学芸部長のもと同窓会学芸部委員を務める。
1908	明治41	17	4月17日 滝川村（現高崎市下滝町）慈眼寺へ遠足。（『群馬』12号）
1908	明治41	17	6月1日 『アカネ』1巻5号に蛇床子の筆名で叙事文「薬師が丘」と雑吟6首がはじめて掲載される。
1908	明治41	17	6月4日 前橋方面（群馬県農事試験場、前橋中学校など）へ遠足。（『群馬』12号）
1908	明治41	17	7月1日 『アカネ』1巻6号に蛇床子の筆名で長詩「科学実験室」と短歌2首掲載。
1908	明治41	17	7月20日 第一学期終業式。（『群馬』12号）
1908	明治41	17	8月1日 『アカネ』1巻7号に蛇床子の筆名で「山人の歌」13首、「旅」の課題詠1首掲載。
1908	明治41	17	9月1日 『アカネ』1巻8号に蛇床子の筆名「夏大根の花」ではじめて目次掲載。ほかに「夕立」5首「朝顔」3首、課題詠「秋の夜」1首掲載
1908	明治41	17	9月1日 榛名登山。（『群馬』12号「榛名行」詞書きより）
1908	明治41	17	9月7日 第二学期始業式。（『群馬』12号）
1908	明治41	18	10月1日 『アカネ』1巻9号に蛇床子の筆名で課題詠「月」1首、長詩「森の哀へ」掲載。
1908	明治41	18	10月1日 遠足。（『群馬』12号） ※1
1908	明治41	18	10月7日～10日 箱根方面へ修学旅行。（『群馬』12号）
1908	明治41	18	10月13日 蕨真ら『阿羅々木』（後に『アララギ』）創刊。
1908	明治41	18	10月頃より 村上成之リウマチのため臥床。
1908	明治41	18	11月3日 『群馬』12号に短歌としてははじめて「榛名行」が掲載される。村上蟬室の筆名で村上成之の句「秋十題」掲載。
1908	明治41	18	11月13日 高崎停車場にて東宮殿下奉迎。（『群馬』13号）
1908	明治41	18	11月16日 近衛師団の貝沢村付近で演習参観。（『群馬』13号）
1908	明治41	18	11月17日 東宮の第十五連隊への行啓を奉送迎。（『群馬』13号）
1908	明治41	18	11月20日 高崎停車場付近で東宮還啓を奉送。（『群馬』13号）
1908	明治41	18	11月21日 四五年生発火演習。（『群馬』13号） ※2
1908	明治41	18	11月30日 戊申詔書奉読式。（『群馬』13号）
1908	明治41	18	12月23日～翌1月3日 村上成之、磯部鉦泉で転地療養。（『群馬』13号）
1908	明治41	18	12月1日 『アカネ』1巻11号に蛇床子の筆名で「燈影歌稿」（箱根6首、追懐4首、悼4首、病める人を懐ふ5首、雑5首）掲載。
1908	明治41	18	12月16日～21日 第二学期試験。（『群馬』13号）
1908	明治41	18	12月21日 第三学期終業式。（『群馬』13号）
1908	明治41	18	この年、村上成之が靉魚郎と知り、歌の話を聞き、『竹の里歌』を借りて書写。『万葉集略解』を買う。
1908	明治41	18	この年、塚越テル子が女子学院を卒業し女子英学塾（現津田塾大学）に進学。入寮。
1909	明治42	18	1月1日 四方拝賀式。（『群馬』13号）
1909	明治42	18	1月1日 『アカネ』1巻12号に蛇床子の筆名で「枯野（小説）」、目次にも掲載。
1909	明治42	18	1月8日 第三学期始業式。（『群馬』13号）
1909	明治42	18	1月14日 観音山付近（現高崎市）で雪中遠足。（『群馬』13号）
1909	明治42	18	1月26日 村上先生舎監を退任。（『群馬』13号）

土屋文明年譜（明治期・大正期）

西暦	和暦	齢	できごと
1909	明治42	18	2月24日 高崎中学学芸部大会で新渡戸稲造の講演を聴く。 ※1
1909	明治42	18	3月23日 『群馬』13号に散文「白楽天と菅公」、蛇床子詠草22首（修学旅行の歌の中7首、冬の歌4首、病める人を懐ふ6首、読竹之里歌5首）、俳句10句、雑報「発火演習記事」、「修学旅行記録（箱根方面）」掲載。村上蟬室の筆名で村上成之の和歌「病牀囁語」15首、俳句「磯部日稿」12句掲載。
1909	明治42	18	3月25日 『ホトトギス』12巻5号の地方俳句界欄に成之の代理で執筆した紫苑会の報告記事と磯部の句1句が掲載される。
1909	明治42	18	3月25日 高崎中学校第八回卒業式。卒業生69名のうち学力善良により賞品を授与される（9名）。（『群馬』14号）
1909	明治42	18	4月10日 村上成之の斡旋で文学修業を志して上京。東京市本所区茅場町3丁目18番地（現墨田区江東橋）で作乳業を営んでいた伊藤左千夫のもとに身を寄せ、その牛舎で働く。
1909	明治42	18	4月11日 左千夫や左千夫の子女と上野公園に花見に行く。午後、左千夫に伴われ小石川茗荷谷の民部里静宅の歌会に出席、蕨真、古泉千樫、斎藤茂吉、平福百穂らと会う。 ※2
1909	明治42	18	4月14日頃 三井甲之に会う。（書簡）
1909	明治42	18	4月27日 伯父土屋紋三郎死去。（系譜） ※3
1909	明治42	18	4月30日 『阿羅々木』1巻3号に20首（蛇床子「柿の木(7首)」「羈旅漫吟底倉温泉（8首）」「七圪歌稿－旅行中の歌（1首）」「病める蟬室大人を懐ふ（4首）」）がはじめて掲載される。
1909	明治42	18	5月1日 『アカネ』2巻4号に「雑詠（6首）」（病む人に2 別るゝ人に4）掲載。
1909	明治42	18	5月6日 夜、古泉千樫と沼津短歌会の下選。『万葉集古義』を少しずつ読む。（書簡）
1909	明治42	18	5月9日 山本董湫宅の歌会に参加。（ア）
1909	明治42	18	7月 『アカネ』終刊。
1909	明治42	18	8月2日 夜半、保渡田へ帰省。（書簡）
1909	明治42	18	8月7日～9日 保渡田の実家を不在にする。（書簡）
1909	明治42	18	8月21日 友を訪ね、吾妻川の川隅に宿泊。（宿泊）
1909	明治42	18	8月22日 帰京。（書簡）
1909	明治42	18	9月 左千夫の尽力で長塚節の友人寺田憲（千葉県香取郡神崎町）の援助を受け、第一高等学校文科に入学。同級に山本有三、豊島与志雄、山宮允、近衛文麿、石渡壮太郎ら。 ※4
1909	明治42	18	入寮。のちに経費削減のため知友の下宿等を転々と移る。 ※5
1909	明治42	18	9月 『アララギ』の発行所が東京の左千夫方に移る。
1909	明治42	18	9月 『アララギ』2巻1号に左千夫選では初めて11首（うち「睡蓮の花」6首）土屋文明の名で掲載。
1909	明治42	18	9月12日 子規居士八周忌歌会に参加。（ア） 森田義郎、石原純等と会う。
1909	明治42	18	9月14日 高崎中学校長高山栄一死去。
1909	明治42	19	9月25日 斎藤茂吉を訪問。（吉田年譜） ※6
1909	明治42	19	10月1日 『アララギ』2巻2号に「赤城湖畔の一夜」6首掲載。
1909	明治42	19	10月9日 根岸子規庵で開かれた東京歌会に参加。（ア）
1909	明治42	19	10月17日 夜、帰省。（書簡）
1909	明治42	19	10月23日 帰京。東京市本郷根津宮永町37池田方の二階に借間。（書簡）
1909	明治42	19	11月14日 根岸子規庵で開かれた歌会に参加、記録係を務める。（ア）
1909	明治42	19	11月 自由劇場による第一回公演。
1909	明治42	19	12月25日 休暇となる。（書簡）
1909	明治42	19	12月26日 帰省。（書簡）
1909	明治42	19	この年神田で橋本直香『上野歌解』を買う。（杉敦夫年譜） ※7
1910	明治43	19	1月5日 夜、小説「七圪物語」執筆（『アララギ』3巻1号（1月29日発行）に掲載）。
1910	明治43	19	1月7日頃 帰京。（書簡）
1910	明治43	19	1月9日 根岸子規庵で開かれた新年歌会に参加。（ア）
1910	明治43	19	3月13日 根岸子規庵で開かれた東京歌会に参加。（ア）
1910	明治43	19	5月15日 小石川茗荷谷庵で開かれた東京歌会に参加。（ア）
1910	明治43	19	5月19日 左千夫の唯真閣でハレー彗星を見る。（左千夫、茂吉、純、千樫、利郷、芳雨、里静等と）（吉田年譜）
1910	明治43	19	6月20日 学年試験終了。（書簡）
1910	明治43	19	7月 戸塚寛一と赤城山に登る。（吉田年譜）
1910	明治43	19	7月12日 寺田憲に落第を告げる書簡を投函。本郷区新花町田村方より。（書簡）

土屋文明年譜（明治期・大正期）

西暦	和暦	齢	できごと
1910	明治43	19	8月 大水害で左千夫宅牛舎が甚大な被害を受ける。（11日、台風が房総半島をかすめる。14日、台風が沼津に上陸、甲府、群馬西部を通過）
1910	明治43	19	9月11日 芥川龍之介、第一高等学校に入学。（芥川年譜）
1910	明治43	19	9月 岩元禎のドイツ語の試験に失敗して山本有三等と共に留年、新たに久米正雄、芥川龍之介、菊池寛、倉田百三、恒藤恭、藤森成吉、矢内原忠雄、秦豊吉らと同学年となる。
1910	明治43	19	9月13日 第一高等学校寄宿舎南寮四番（東京市本郷区向ヶ岡弥生町一）に入寮。（書簡）
1910	明治43	20	9月19日 根岸子規庵で開かれた子規忌歌会で中村憲吉と会う。
1910	明治43	20	11月23日 茂吉宅歌会。（ア）
1910	明治43	20	12月24日 休暇となる。（書簡）
1910	明治43	20	12月26日 寄宿舎に茂吉が来訪、午後中歌の話をする。（書簡）
1910	明治43	20	この年、左千夫が福迫馬陵編集の雑誌『台湾愛国婦人』に小説「古代の少女」を連載したことから文明も馬陵に知られ、その紹介で小此木信六郎（医師）より学費補助の意味で仕事を与えられる。（杉敦夫による） ※1
1910	明治43	20	この年 斎藤茂吉が東京帝国大学医科大学を卒業。
1911	明治44	20	1月6日 白石実三に書簡。「小生も或は文芸のことにたづさはる様になるかとも存じ居り候へども」（館蔵）
1911	明治44	20	1月15日 根岸子規庵で開かれた東京歌会に参加。（ア）
1911	明治44	20	2月19日 左千夫宅で開かれた東京歌会に参加。（ア）
1911	明治44	20	3月12日 茂吉宅で開かれた東京歌会に参加。（ア）
1911	明治44	20	3月30日 第二学期終了。（書簡）
1911	明治44	20	3月末頃 帰省。（書簡）
1911	明治44	20	4月1日 『アララギ』4巻4号に小説「秋の一日（○○○○旅行記より）」掲載、伊香保周辺の記述あり。
1911	明治44	20	4月5日～ 芥川龍之介、赤城山を旅行。（芥川年譜）
1911	明治44	20	4月11日 休暇終了。10日までに帰京。（書簡）
1911	明治44	20	5月7日午前 婦人会雑誌（『台湾愛国婦人』か）の件で福迫馬陵に面会。（書簡）
1911	明治44	20	5月頃 メーテルリンク『蜂の生活』、カリダッサ『サクンタラ姫』の英訳版を購入。（書簡）
1911	明治44	20	5月14日 根岸子規庵で開かれた東京歌会に参加。（ア）（吉田年譜…石原純東北大赴任送別歌会）
1911	明治44	20	6月19日 試験終了。（書簡）
1911	明治44	20	6月20日 『台湾愛国婦人』の原稿執筆に着手。29日原稿完成。（書簡）
1911	明治44	20	6月30日 寄宿舎を出て帰省、村上成之宅訪問。（書簡）
1911	明治44	20	7月15日 村上成之と妙義山。（書簡）
1911	明治44	20	8月 『台湾愛国婦人』33巻に「伊香保沼」ほか掲載。
1911	明治44	20	9月15日頃 第一高等学校寄宿舎北寮四番に入寮。（書簡）
1911	明治44	20	9月17日 福迫馬陵を訪問し紹介状を貰うつもりが不在にてかわず。（書簡）
1911	明治44	21	12月24日 平福百穂宅で開かれた東京歌会に参加。（ア）
1911	明治44	21	12月26日 帰省。（書簡）
1912	明治45	21	1月7日 帰京。8日始業。（書簡）
1912	明治45	21	3月 塚越テル子、女子英学塾専科卒業。その後、私立東京女子商業学校に勤務。
1912	明治45	21	5月1日 『アララギ』5巻5号に「本号は土屋文明氏編集せられ候」とある。
1912	明治45	21	5月6日 中村憲吉宅で柿の村人作品合評。
1912	明治45	21	6月21日 学期終了、22日帰省。（書簡）
1912	明治45	21	6月22日 塚越ワカ（テル子妹）19歳で病死。（墓碑） ※1
1912	明治45	21	6月末 榛東村ガラメキ温泉へ。（書簡）
1912	明治45	21	6月頃 イブセン、ハウプトマンを読む。（書簡）
1912	明治45	21	7月16日 山本勇造（山本有三）宛に榛東村ガラメキ温泉より絵葉書。（書簡）
1912	大正元	21	7月30日 明治天皇崩御、改元。
1912	大正元	21	9月8日 夜、上京（北寮四番）。（書簡）
1912	大正元	21	9月17日 寺田憲より12円を振替貯金にて受け取る。（書簡）
1912	大正元	22	9月18日 子規忌歌会出席。（吉田年譜）
1912	大正元	22	12月27日 帰省。（書簡）

土屋文明年譜（明治期・大正期）

西暦	和暦	齢	できごと
1913	大正2	22	1月1日 保渡田より寺田憲に年賀状を送る。（書簡）
1913	大正2	22	1月14日 唯真閣歌会。（吉田年譜）
1913	大正2	22	1月 『台湾愛国婦人』50巻に土屋榛南の筆名で「舍君多羅姫物語」掲載。
1913	大正2	22	2月 赤木格堂が『青年日本』創刊。格堂の書生となり『青年日本』編集発行を手伝う。東京市牛込区早稲田南町48青年日本社に転居。
1913	大正2	22	3月24日 石原純渡欧送別歌会。（吉田年譜）
1913	大正2	22	6月 茂吉等と百穂宅歌会。（吉田年譜）
1913	大正2	22	6月22日～25日 芥川龍之介、赤城山、榛名山、伊香保を旅行。（芥川年譜）
1913	大正2	22	7月1日 第一高等学校卒業。（芥川年譜）
1913	大正2	22	7月7日 帰京。 ※1
1913	大正2	22	7月11日 久米正雄来訪。 ※2
1913	大正2	22	7月14日 青年日本社の名刺を受け取る。 ※3
1913	大正2	22	7月15日 津田氏と茅原氏を訪問。 ※4
1913	大正2	22	7月23日 蕨礎山に書簡で講演会の依頼。 ※5
1913	大正2	22	7月26日 有栖川宮挽歌について尋ねるため左千夫の茶室を訪問。 ※6
1913	大正2	22	7月29日 赤木格堂からの助言で講演会の延期の書簡を蕨礎山に出す。 ※7
1913	大正2	22	7月30日 午後6時、伊藤左千夫急逝。（29日深夜11時に大島の家に帰宅。まもなく倒れ、意識が回復しないまま死去）
1913	大正2	22	7月30日 午後11時、電報を受け取る。 ※8
1913	大正2	22	7月31日 塚越テル子、31日付の辞令（英語担任）により足利郡立足利高等女学校へ赴任（英語担任）。
1913	大正2	22	7月31日、8月1日 茅場町唯真閣にて通夜。
1913	大正2	22	8月2日 午後3時出棺。夜帰宅。 ※9
1913	大正2	22	8月3日 午後、遺品整理のため茅場町の左千夫の茶室へ行き夜帰宅。 ※10
1913	大正2	22	8月4日 夜、茅場町の左千夫の茶室へ（8月13日まで） ※11
1913	大正2	22	8月10日 朝、赤木格堂宛に「遺稿出版のことにつき」書簡。（館蔵）
1913	大正2	22	8月10日 午後、赤木格堂宛に田山花袋の原稿について書簡。（館蔵）
1913	大正2	22	8月11日 赤木格堂宛に特別号中止について書簡。（館蔵） ※12
1913	大正2	22	8月12日 夜遅く高崎へ。 ※13
1913	大正2	22	8月13日 朝、帰省、夕方は赤城へ。 ※14
1913	大正2	22	8月14日 帰京。 ※15
1913	大正2	22	8月18日 伊藤左千夫の追悼文「わかれ」を執筆。 ※16
1913	大正2	22	8月21日 夜または22日朝 白石実三宅を訪問し田山花袋の原稿を預かる。（代理人の場合もあり） ※17
1913	大正2	22	8月29日 夜、高崎着。 ※18
1913	大正2	22	8月31日～9月22日頃 赤城に数日を過ごす。 ※19
1913	大正2	22	9月 東京帝国大学文科大学に入学。出隆、蔵岡蔵六、近藤哲雄等と同級に。（吉田年譜）
1913	大正2	23	10月 毎夜のように『青年日本』の経営について格堂と語り合う。 ※20
1913	大正2	23	10月11日 寺田憲の弟と亀戸に墓参。（書簡） ※21
1913	大正2	23	10月15日 斎藤茂吉『赤光』刊。
1913	大正2	23	10月16日 高崎経由で長野へ向かう。浅間温泉に宿泊。（書簡）
1913	大正2	23	10月17日 午後6時までに松本銀行へ。上諏訪の布半に宿泊。（書簡p40）島木赤彦と同宿。 ※22
1913	大正2	23	10月 島木赤彦を諏訪に訪問。諏訪高等女学校に同行。（吉田年譜）
1913	大正2	23	11月1日 『青年日本』1巻10号に短歌5首と「信濃路の秋(一)」（1巻11号に「信濃路の秋(二)」）掲載。
1913	大正2	23	11月9日 赤木格堂宛に京城日報へ行ってみたいことを伝える書簡。（館蔵）
1914	大正3	23	1月19日 赤木格堂宛に久米正雄から新雑誌に誘われていることを伝える書簡。（館蔵）
1914	大正3	23	1月31日 赤木格堂宛に二月号について新雑誌について伝える書簡。（館蔵）
1914	大正3	23	2月 『青年日本』との関係を絶つ。（書簡） ※1

土屋文明年譜（明治期・大正期）

西暦	和暦	齢	できごと
1914	大正3	23	2月12日 第三次『新思潮』（山本有三、芥川龍之介、菊池寛、久米正雄、山宮允、豊島与志雄、松岡譲、成瀬正一、佐野文夫）創刊に参加。井出説太郎の筆名で戯曲「雪来る前」発表。別に中島精一、佐藤重賢、浜中浜太郎ら哲学仲間と親しむ。
1914	大正3	23	3月13日 小説「妹のこと」を執筆。（『新思潮』）
1914	大正3	23	3月15日 小説「桑の実」を執筆。（『新思潮』）
1914	大正3	23	4月 島木赤彦『アララギ』の編集のため郡師学をやめて上京。
1914	大正3	23	4月14日 小石川区表町109小泉方より葉書投函。（書簡）
1914	大正3	23	4月1日 『新思潮』1巻3号に井出説太郎名で小説「妹のこと」掲載。同じ号に消息「井出は来月より愈々仮面を脱ぎて専心創作に従事すべし。彼は青年日本社の食客なりしか不都合の廉ありて社を逐はれ、故郷に病みたる妹を慰めて居り、桜花の頃まで浅間の煙を見て滞在の由。」とある。
1914	大正3	23	5月1日 『新思潮』1巻4号に井出説太郎名で小説「従姉-或る男の物語から」掲載。
1914	大正3	23	7月1日 『新思潮』1巻6号に井出説太郎名で小説「桑の実」掲載。
1914	大正3	23	8月1日 『新思潮』1巻7号に井出説太郎名で小説「誘惑」掲載。
1914	大正3	23	9月1日 第三次『新思潮』8号で廃刊。
1914	大正3	24	11月1日 ストリンドベルヒ原作の『結婚生活』を井出説太郎の筆名で翻訳出版。報酬として35円を得る。 ※2
1914	大正3	24	11月1日 『アララギ』7巻10号～8巻4号に「短歌小観」を5回連載。
1915	大正4	24	2月1日 『アララギ』の編集発行人が久保田俊彦（島木赤彦）になる。
1915	大正4	24	2月8日 長塚節死去。
1915	大正4	24	2月11日 九州で没した長塚節の遺骨を東京駅に赤彦、憲吉、茂吉等と迎える。（吉村年譜）（吉田年譜では「遺骸」）
1915	大正4	24	8月4日 保渡田より書簡投函。（書簡）
1915	大正4	25	牛込区金富町に下宿。（吉田年譜） ※1
1916	大正5	25	1月18日 久米正雄と芥川龍之介を訪問、大龍寺へ行く。（芥川年譜）
1916	大正5	25	2月15日 第4次『新思潮』創刊。芥川龍之介の「鼻」が掲載され、夏目漱石に激賞される。
1916	大正5	25	2月1日 『アララギ』9巻2号に評論「短歌に於ける写生」発表。
1916	大正5	25	2月13日 茂吉宅で開かれた長塚節一周忌歌会に参加。
1916	大正5	25	7月2日 東京市小石川大門町23藤生方より書簡投函。（書簡） ※1
1916	大正5	25	7月9日 発行所で開かれた左千夫四周忌歌会に参加。（吉田年譜）
1916	大正5	25	7月10日 東京帝国大学（文科大学哲学科心理学専攻）卒業。 ※2
1916	大正5	25	国民新聞社に入社を希望したが実現せず。（吉田年譜） ※3
1916	大正5	26	11月頃 小石川伝通院前に移転。（吉田年譜）
1916	大正5	26	12月9日 夏目漱石死去。
1916	大正5	26	12月24日 翻訳『波斯神話』刊。
1917	大正6	26	1月23日 『波斯神話』を寺田憲に送付。（書簡）
1917	大正6	26	2月9日 長塚節追悼会に参加。（書簡）
1917	大正6	26	3月1日 『アララギ』選者に加わる。（3月号より釈迢空と）
1917	大正6	26	3月1日 『珊瑚礁』創刊。
1917	大正6	26	図書館司書になろうとしたが果たさず。（吉田年譜）
1917	大正6	26	3月30日 弟望運、上郊尋常高等小学校を卒業。
1917	大正6	26	4月1日 『アララギ』10巻4号より選歌評掲載。同号に「万葉集中民謡の研究」発表。
1917	大正6	26	5月 下宿先藤生氏の移転に伴い牛込区筑土八幡20に移転。福島竹治郎（周次郎の兄文造の次男）と同居。（吉田年譜）
1917	大正6	26	5月11日 「枸杞の芽（14首）」執筆。（『珊瑚礁』6月号）
1917	大正6	26	5月16日 坂本四方太死去。
1917	大正6	26	5月22日 茂吉宅で開かれた中村憲吉歓迎歌会に参加。（ア）
1917	大正6	26	5月23日 芥川龍之介『羅生門』刊行。
1917	大正6	26	6月 帰郷して徴兵検査を受ける。（『アララギ』6月号編集所便） 丙種合格。
1917	大正6	26	6月1日 『アララギ』10巻6号に「蚕室の一夜」8首掲載。
1917	大正6	26	6月1日 『珊瑚礁』1巻4号に「枸杞の芽」14首初掲載。

土屋文明年譜（明治期・大正期）

西暦	和暦	齢	できごと
1917	大正6	26	7月 私立荏原中学校（府下大井町）に英語教師として就職、夜は三田英語学校講師。（東京に留まり勉強をつづけたい 8.19書簡） ※1
1917	大正6	26	7月8日 亀戸普門院で開かれた左千夫五周忌歌会に参加。（ア）
1917	大正6	26	8月13日 珊瑚礁八月例会に参加。（『珊瑚礁』9月号に2首）
1917	大正6	26	8月19日 東京府下大井町86 田中平兵衛方に転居。（書簡）（「東京湾を一目に収め候」8.19書簡）
1917	大正6	26	夏 赤彦より諏訪の教員になることをすすめられる。（吉田年譜）
1917	大正6	26	9月1日 『珊瑚礁』1巻7号に「庭前即事」掲載。
1917	大正6	27	10月16日 高木今衛を家に遊びに来よう誘う。（書簡）
1917	大正6	27	10月17日 帰去来荘で開かれた富士見歌会に参加、記録係を務める。（ア）10月8日消印の「富士見にて」葉書あり。（書簡）3日間滞在。（11.22書簡） ※2
1917	大正6	27	10月22日 弟望運15歳で死去。（系譜） ※3
1917	大正6	27	11月4日 帰京。（書簡）
1917	大正6	27	この頃大井町1070に一軒家を借り、祖母を一時引き取る。 ※4
1917	大正6	27	12月 父保太郎保渡田の家を売り上京、深川区高橋五丁目で米屋を開業。
1917	大正6	27	12月25日 茂吉宅で開かれた斎藤茂吉送別歌会に参加。（ア）
1918	大正7	27	2月3日 久米正雄宛に書簡（12日頃までに書き上げる。弟の死のことをやるつもり）。（書簡）
1918	大正7	27	3月 塚越庫一郎次女、塚越テル子と結婚。 ※1
1918	大正7	27	3月25日 平福百穂がアララギ関係者を招き開いてくれた上野精養軒での送別会に出席。（歌人）
1918	大正7	27	3月29日 久米正雄・山本有三が湯島天神下の料亭で開いてくれた送別会に出席。（歌人）その後甲府経由で諏訪へ向かう。（書簡）
1918	大正7	27	4月 島木赤彦の紹介により諏訪高等女学校（現長野県諏訪二葉高等学校）に教頭として赴任。校長三村安治。 ※2
1918	大正7	27	4月3日 上諏訪の布半に滞在。（書簡）
1918	大正7	27	4月5日 上諏訪小和田新小路、有賀治平宅に転居。8 畳2間6畳2間で月5円。（書簡） ※3
1918	大正7	27	4月13日 諏訪鷺の湯で開かれた土屋文明歓迎歌会に参加。（ア）
1918	大正7	27	5月1日 『帝国文学』24巻5号に小説「弟を死なす」発表。
1918	大正7	27	5月末か 松本浅間にて教育会の講話。（書簡）
1918	大正7	27	8月 上諏訪町新小路より小和田村（現諏訪市小和田）田宿（藤森成吉の生家大阪屋の別荘）に転居。 ※4
1918	大正7	27	8月17日 四賀村頼重院で開かれた諏訪アララギ歌会に参加。（ア）
1918	大正7	28	10月17日 湖南村竜泉寺で開かれた諏訪アララギ歌会に参加。（ア）
1918	大正7	28	12月1日 俵井で開かれた諏訪歌会に参加。（ア）
1918	大正7	28	12月 上京。（吉田年譜）
1919	大正8	28	1月15日 上諏訪、諏訪ホテルで開かれた諏訪歌会に参加。（ア）
1919	大正8	28	5月8日 上諏訪湖明館で開かれた諏訪歌会に参加。（ア）
1919	大正8	28	6月8日 伊那（常円寺）で万葉集講義。全3回。（吉田年譜）
1919	大正8	28	7月6日 伊那（常円寺）で万葉集講義。（吉田年譜）
1919	大正8	28	9月14日 伊那（常円寺）で万葉集講義。（吉田年譜）
1919	大正8	29	9月22日 富士見帰去来荘での歌会に参加。（吉田年譜）
1919	大正8	29	10月22日 玉川村まる屋での諏訪歌会に参加。（吉田年譜）
1919	大正8	29	11月22日 まる屋で開かれた諏訪アララギ歌会に参加。（ア）
1919	大正8	29	12月7日 上伊那郡女教員会で講演（赤彦と共に）。（吉田年譜）
1920	大正9	29	1月31日 諏訪高等女学校長となる。（1月31日附発令） ※1
1920	大正9	29	2月14日 上京して芝松秀寺で開かれた長塚節六回忌歌会に参加。（ア）
1920	大正9	29	2月29日 伊那（常円寺）で大伴家持についての講義。（吉田年譜）
1920	大正9	29	2月 西尾実と「補習国文読本」の編集委員となる。（吉田年譜）
1920	大正9	29	3月 原村アララギ歌会に参加。（吉田年譜）
1920	大正9	29	4月 上京。（吉田年譜）
1920	大正9	29	6月9日 菊池寛『大阪毎日新聞』『東京日日新聞』に「真珠夫人」を連載（12月22日まで）。大評判となり、人気作家となる。
1920	大正9	29	7月10日 上諏訪町図書館で開かれた諏訪アララギ歌会に参加。（ア）

土屋文明年譜（明治期・大正期）

西暦	和暦	齢	できごと
1920	大正9	29	7月26日～30日 伊那小学校で万葉集講義。
1920	大正9	30	11月 大阪における校長会ののち各地を視察、その間に西宮の中村憲吉を訪問。奈良へ同行。正倉院曝涼を観て、森鷗外と会う。法隆寺にも行く。（吉村年譜） 守屋喜七、加納暁と会う。神戸から船で九州へ、鹿児島から長崎に入り斎藤茂吉を訪問。 ※2
1920	大正9	30	11月14日 長崎病院に入院中の斎藤茂吉を見舞う。
1920	大正9	30	11月14日 斎藤茂吉と春徳寺を訪問。（つゆじも）
1920	大正9	30	11月17日 長崎茂吉宅で開かれた土屋文明歓迎歌会に参加。（ア） ※3
1920	大正9	30	11月20日 平福百穂長崎に来る。三人で会食。（吉田年譜）
1920	大正9	30	11月21日 長崎を発つ。（つゆじも）
1920	大正9	30	この年、群馬県より関根甚七を諏訪高女に赴任させる。
1921	大正10	30	2月5日 鷲の湯で開かれた諏訪アララギ会歌会に赤彦らと参加。（吉田年譜）
1921	大正10	30	3月19日 芥川龍之介、中国特派旅行に出発（～7月17日）。（芥川年譜）
1921	大正10	30	4月22日 茂吉、耕平、赤彦らと地蔵寺歌会に参加。（吉田年譜）
1921	大正10	30	4月30日 茂吉、赤彦らと富士見歌会に参加。（吉田年譜）
1921	大正10	30	5月 西尾実らと長野県立図書館設立調査委員となる。（吉田年譜）
1921	大正10	30	5月24日 逢瀬館で開かれた長野アララギ歌会に参加。（ア）
1921	大正10	30	7月 教育視察団に参加し大牟田、宮崎など九州旅行。（吉田年譜）
1921	大正10	30	8月22日 上諏訪町地蔵寺で開かれた斎藤茂吉土田耕平杉浦翠子歓迎歌会に参加。（吉田年譜）
1921	大正10	30	9月3日 上諏訪町温泉寺で開かれた茂吉渡欧送別・中村憲吉・平福百穂歓迎歌会に参加。 ※1
1921	大正10	31	10月9日 芝日限（ひざり）地蔵で開かれた斎藤茂吉送別歌会に参加。（ア）
1921	大正10	31	10月28日 ドイツ留学する斎藤茂吉を横浜に送る。（ア）
1921	大正10	31	この年、関根甚七を福井県武生中学校へ転出させる。（吉田年譜）
1921	大正10	31	この年の修学旅行で生徒、平林タイ、野山美佐がこれに参加せず上京し堺利彦の娘真柄を訪ねる。（吉田年譜）
1921	大正10	31	諏訪、富士見での歌会に、ほとんど毎月のように出席。（吉村年譜）
1922	大正11	31	3月27日 松本高等女学校（現長野県松本蟻ヶ崎高等学校）校長に就任。松本市西町に転居。 ※1
1922	大正11	31	7月9日 森鷗外死去。
1922	大正11	31	7月16日 富士見左千夫歌碑除幕式に参列。富士見信用組合事務所で開かれた左千夫歌碑建立記念歌会に参加。（ア）
1922	大正11	31	7月18日 長男夏実誕生。
1922	大正11	32	10月14日 蕨真（礎山）死去。
1922	大正11	32	冬 武蔵秋川溪谷に行く。（吉田年譜）
1923	大正12	32	1月 菊池寛が『文藝春秋』を創刊。
1923	大正12	32	6月 三村安治、西尾実らと教育問題研究委員となる。
1923	大正12	32	9月1日 関東大震災。
1923	大正12	32	9月2日 上京し罹災した深川の父母を見舞う。
1923	大正12	32	9月3日 長女草子誕生。
1923	大正12	33	10月4日 島木赤彦に書簡。（館蔵）「地震のことは何か書きたし」
1924	大正13	33	2月末～3月上旬 明日香を訪ね吉野に遊ぶ。宮滝付近を見物。
1924	大正13	33	4月4日 木曾中学校長への転任発令。 ※1
1924	大正13	33	4月8日 生徒への告別式。 ※2
1924	大正13	33	4月9日 テル子と二児を先行させ、10日朝列車で松本を去る。 ※3
1924	大正13	33	郷里上郊村保渡田のテル子の実家に一家四人で身を寄せる。二児を預けて夫妻で職をもとめて上京する。 ※3
1924	大正13	33	4月24日 テル子は足利高等女学校に復職、二児とともに足利に住む。 ※3
1924	大正13	33	4月30日 長野県木曾中学校長を依願退職。 ※4
1924	大正13	33	単身小石川区上富坂23いろは館に宿泊（現文京区小石川二丁目）、森田草平、野上豊一郎の推挙により法政大学文学部予科専任講師（のち教授）に就任。 ※5
1924	大正13	33	5月 高崎中学を退職した村上成之が名古屋へ向かう途中、東京の文明宅に立ち寄る。歌集の編集方針について話す。（翠微）
1924	大正13	33	7月6日 亀戸普門院で開かれた左千夫十二回忌歌会に参加。（ア）

土屋文明年譜（明治期・大正期）

西暦	和暦	齢	できごと
1924	大正13	33	7月29日～31日 第1回アララギ安居会（唐沢山阿弥陀寺）開催。文明は長男夏実が病気のため不参加。
1924	大正13	33	9月1日 伯父福島周次郎死去。（複数の年譜） ※6
1924	大正13	33	9月上旬 那須野、白河旅行。（吉田年譜）
1924	大正13	34	9月27日 田端大竜寺で開かれた子規先生二十三回忌歌会に参加。（ア）
1924	大正13	34	10月25日頃 村上成之の歌集の草案550余首の抜き書きが送られてくる。（翠微）
1924	大正13	34	11月20日 夏実を連れて両崖山に登る。
1924	大正13	34	11月30日 村上成之死去。
1924	大正13	34	12月1日 成之危篤の報を受け名古屋に赴くも間に合わず、2日 葬儀参列。
1924	大正13	34	12月24日 『ふゆくさ』の「巻末雑記」稿了。
1924	大正13	34	12月29日 青山脳病院全焼。（足利の家で新聞により知る）
1925	大正14	34	1月9日 青山脳病院焼跡に茂吉（12月29日消失、1月5日帰朝）を見舞う。
1925	大正14	34	1月10日 「巻末雑記」に追記。
1925	大正14	34	1月24日 植物園に行く。（詞書）
1925	大正14	34	2月3日 『ふゆくさ』の表紙画を受け取るため、富津の平福百穂を訪問。
1925	大正14	34	2月7日 清水谷公園皆香園で開かれた斎藤茂吉氏歓迎歌会に参加。（ア）
1925	大正14	34	2月28日 第一歌集『ふゆくさ』（古今書院）刊。
1925	大正14	34	2月28日 芥川龍之介より来信『ふゆくさ』の礼状。（芥川年譜）
1925	大正14	34	3月10日 憲吉上京に際し百穂宅で編集会。憲吉、茂吉、文明、古実、赤彦、忠吉、麓。
1925	大正14	34	5月3日 亀戸普門院で開かれた伊藤左千夫第十三回忌歌会に参加、斎藤茂吉、平福百穂、岡麓らと。
1925	大正14	34	6月 茂吉、赤彦、憲吉らの自選歌集記念会（三緑亭）出席。
1925	大正14	34	7月上旬 芥川龍之介を訪問するが留守で会えず。（芥川年譜）
1925	大正14	34	7月12日 夜、斎藤茂吉来訪。（茂吉年譜）（『茂吉日記』土屋文明君ヲタツネテうなぎ馳走ニナル）
1925	大正14	34	7月28日～8月3日 第2回比叡山アララギ安居会（7月29日～8月2日 比叡山山上宿院）出席。「大伴家持の歌」講演。 ※1
1925	大正14	34	8月3日 奈良
1925	大正14	34	8月4日 高野山奥の院
1925	大正14	34	8月6日 紀伊三井寺、新和歌浦、海路勝浦へ。
1925	大正14	34	8月7日～10日 茂吉、武藤善友と熊野三社、大雲取へ。（8月7日 新宮、勝浦より船で鳥羽へ。10日 帰京）
1925	大正14	34	9月8日 平賀元義歌集祝賀会（湯島天神境内鳥屋「末仲」）参加、茂吉、麓、赤彦、古今書院らと。
1925	大正14	34	9月10日 『南蛮広記』の完成祝いのため、湯河原「伊藤旅館」に平福百穂を訪問、茂吉、赤彦、岩波茂雄、古今書院の橋本福松と。（茂吉年譜）
1925	大正14	35	9月18日 発起人となってまとめ年譜等執筆した村上成之歌集『翠微』刊行。
1925	大正14	35	9月20日 菊池寛宛に書簡。（『アララギ』の「ふゆくさ批評号」への執筆依頼）（館蔵）
1925	大正14	35	10月4日 大竜寺で開かれた子規忌歌会に参加。（ア）
1925	大正14	35	10月16日 法光寺で開かれた上諏訪町歌会に出席。（吉田年譜）
1925	大正14	35	10月頃 芥川龍之介の世話により田端500に転居、足利より妻子を呼ぶ。
1925	大正14	35	11月 萩原朔太郎、4月上旬より居住の田端三十二番地から鎌倉へ転居。（芥川年譜）
1925	大正14	35	この年日本医科大学予科講師となり、週1回心理学、倫理学を講義。（昭和11年まで）
1926	大正15	35	1月1日～10日頃 福島竹治郎とともに伊香保の塚越に宿泊。（書簡）（ア「元旦早々伊香保温泉へ行き約十日間創作に没頭され候」）
1926	大正15	35	1月23日 芥川龍之介へ手紙。「この間は少々参つたやつと何かやる気が出て来た。」（芥川展図録）
1926	大正15	35	1月26日 湯河原の芥川龍之介より来信。「ぜひ来給へ」（芥川展図録）
1926	大正15	35	1月26日 斎藤茂吉と日本橋へ行き寄せ鍋を食べる。（茂吉年譜）
1926	大正15	35	2月7日 芝白金三光町松秀寺で開かれた長塚節第十二回忌・山本信一第七回忌歌会に参加。（茂吉年譜）（ア）
1926	大正15	35	2月9日 湯河原の芥川龍之介より来信。「きのふもけふも君を待ちつつ」（芥川展図録）
1926	大正15	35	2月11日 アララギ発行所に集まり（赤彦、茂吉、百穂、麓、建次、堀内、古実、浪吉、忠吉、岩波主人、憲吉）、九段野々宮で写真撮影。
1926	大正15	35	2月13日 朝、上諏訪に戻る前の赤彦に会う。（茂吉年譜）
1926	大正15	35	2月15日 次女うめ子誕生。

土屋文明年譜（明治期・大正期）

西暦	和暦	齢	できごと
1926	大正15	35	この月より第一日曜日午後を発行所面会日とする。
1926	大正15	35	3月7日 アララギ発行所で茂吉、藤沢古実と会員の歌を見る。（茂吉年譜）
1926	大正15	35	3月11日 竹尾忠吉送別会（三河屋牛肉店）に出席。（茂吉年譜）
1926	大正15	35	3月13日 アララギ発行所に集まる。（茂吉年譜）赤彦の話題。
1926	大正15	35	3月20日 中村憲吉からの知らせで午後5時に上諏訪に出発。（茂吉年譜）
1926	大正15	35	3月22日 茂吉に同行し赤彦の主治医伴鎌吉に挨拶に行く。昼食後茂吉、岩波、百穂、憲吉らと赤彦を訪問。（茂吉年譜）
1926	大正15	35	3月23日 夜11時35分発の汽車で帰京。（茂吉年譜）
1926	大正15	35	3月27日 島木赤彦死去。
1926	大正15	35	3月29日 赤彦の葬儀に参列（茂吉、百穂、麓、岩波、橋本、憲吉、胡桃沢勘内、太田水穂、釈迺空ら）。（茂吉年譜）
1926	大正15	35	4月5日 長野へ。10日頃帰京。（書簡）
1926	大正15	35	4月15日 馬場謙一郎と茂吉を訪問、山口茂吉らと長塚節全集のことについて話す。赤彦追悼会、追悼号について談合する。（茂吉年譜）
1926	大正15	35	4月18日 午後、茂吉、麓と松秀寺に辻村直を訪問。（その後、赤彦追悼会の件で芝増上寺にも同行か）（茂吉年譜）
1926	大正15	35	4月21日 茂吉を訪問。（茂吉年譜）
1926	大正15	35	4月23日 信濃教育会『信濃教育』編集主任となる。昭和3年1月まで毎月長野へ。同誌に文章連載。
1926	大正15	35	5月10日 伊那箕輪小学校で講演。
1926	大正15	35	5月16日 赤彦追悼会（芝増上寺）。（茂吉年譜）
1926	大正15	35	5月17日 アララギ編集会（百穂宅）。選歌、財政、安居会、年刊歌集のことが議題。その後、茂吉、麓、憲吉、古実、浪吉らというはで百穂に牛肉をご馳走になる（茂吉年譜）
1926	大正15	35	5月25日 三峯山から帰りアララギ発行所で安居会のことを書く。（茂吉年譜）
1926	大正15	35	6月6日 アララギ発行所で茂吉と選歌。（茂吉年譜）
1926	大正15	35	6月25日頃 編集のため長野へ。（書簡） 26日『信濃教育』赤彦追悼号について編集会。
1926	大正15	35	6月27日 亀戸普門院で開かれた伊藤左千夫十四回忌歌会に参加。（茂吉年譜）
1926	大正15	35	7月4日 （赤彦百箇日）（茂吉年譜）
1926	大正15	35	7月9日 義母が茂吉の診察を受ける。（茂吉年譜）
1926	大正15	35	7月11日 信濃飯田高等小学校で「子規の文学論に就いて」の講演。
1926	大正15	35	7月14日 東京府下下落合府営住宅1-20に移転。（ア）東京市外落合町下落合府営住宅1ノ20（下落合1501）に転居。（書簡15日付）
1926	大正15	35	7月23日頃 長野へ。（書簡）
1926	大正15	35	7月29日 茂吉訪問。
1926	大正15	35	7月31日～7日 第三回三峯山安居会（8月2日～6日 三峰神社大書院）出席。2日、3日、「大伴旅人」を講演。 ※1
1926	大正15	35	8月7日 三峯山より結城哀草果、森川汀川、平福百穂、鹿児島寿蔵、藤沢古実、中村憲吉、岡麓、斎藤茂吉らと芥川龍之介宛に寄せ書きで葉書を出す。（芥川展図録）
1926	大正15	35	8月7日 岡麓、斎藤茂吉、藤沢古実、高田浪吉らと三峯山下山、秩父町に寄り電車で乗車。熊谷で下車、高崎、多胡碑をめぐり伊香保の福一に宿泊。（茂吉年譜）
1926	大正15	35	8月21日 アララギ発行所に行く。（茂吉年譜）
1926	大正15	35	8月30日 茂吉を訪問し諏訪湖のたにしを贈る。（茂吉年譜）
1926	大正15	36	9月25日 茂吉とともに鶴沼海岸に滞在中の芥川龍之介を訪問。あづま屋に宿泊。（茂吉年譜）
1926	大正15	36	9月26日 午後1時50分の電車（芥川年譜）、藤沢経由で戻り、田端大龍寺で開かれた子規忌歌会に参加。（茂吉年譜）
1926	大正15	36	10月5日 茂吉訪問。澤徳でうなぎを食べる。（茂吉年譜）
1926	大正15	36	10月9日 木曾読書小学校にて南部国語研究会主催の万葉集の講義を始める。昭和4年11月まで27回継続。
1926	大正15	36	10月10日 木曾読書小学校にて南部国語研究会主催万葉集講義第2回。
1926	大正15	36	10月15日 夜行で諏訪へ。下諏訪の桔梗屋に宿泊。（茂吉年譜）
1926	大正15	36	10月16日 上諏訪法光寺で開かれた島木赤彦追悼歌会に参加。茂吉と結語の話をする。（茂吉年譜）
1926	大正15	36	10月17日 夜行で帰京。（茂吉年譜）

土屋文明年譜（明治期・大正期）

西暦	和暦	齢	できごと
1926	大正15	36	10月21日～24日 長野に行き南佐久から余地峠を越えて下仁田へ出て帰京。（書簡）落合京太郎と。
1926	大正15	36	10月29日 午後1時頃茂吉訪問。二人で帝展を見物、日本美術協会の展覧会を見る。（茂吉年譜）
1926	大正15	36	11月13日 木曾読書小学校にて万葉集講義第3回。
1926	大正15	36	11月14日 木曾読書小学校にて万葉集講義第4回。
1926	大正15	36	11月18日 夜、青山いろはで茂吉、憲吉、百穂と会食。（茂吉年譜）
1926	大正15	36	この年『万葉集年表』に着手。